

「一般社団法人 社会福祉経営全国会議」

管理職養成学校ニュース



2022年12月20日発行（No.4）連絡先/〒543-0045 大阪市天王寺区寺田町2-5-6-902



2022年11/24（木）～25（金）

第3講座が1泊研修として与謝野町で開催されました！

合宿開催にあたっては感染症防止対策について事務局でも検討し、感染防止ガイドラインの作成、合宿中の宿泊は個室対応、こまめな検温、換気対策、食事場面での黙食などの対応について明確にしたうえで研修開催させていただきました。当日は受講生22名が現地参加、1名がオンライン参加となりました。

第3講座の獲得目標は以下の3点でした。

- ① 福祉施設の管理業務である「福祉実践」「教育」「労務」「経営」「運動」について、他法人から学ぶ機会とする。
- ② 社会福祉とは異なる業界の経営・管理業務を学び、管理者としての見識を高める。
- ③ 受講生どうしの連帯感、仲間づくりを促進する場とする。



8月にスタートした養成学校ですが、オンラインでの自主ゼミ・講座参加での交流は活発に行われていましたが、受講生どうしで実際に会うのは今回初めて。対面を喜び合う皆さん姿が印象的でした。また、今年度は宿泊先の一つである「かや山の家」から雲海の絶景を見ることもできました！学校第2期生の皆さんには強運も持っているようです！

1日目

～リフレかやの里～



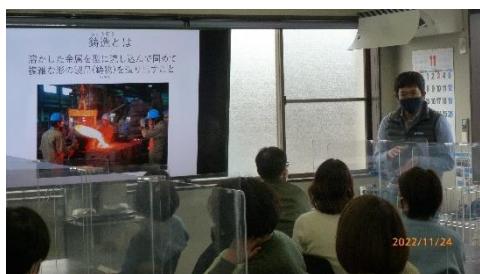
最初の講演は、「リフレかやの里」管理者の藤原さゆり氏です。藤原氏は学校卒業後に無認可作業所に入職しはじめての給料日。仲間より給料が多かったことに疑問を感じたこと、それが「みんなに少しでも多くの給料を払えるようになること」が自分の仕事である、と志し「仕事づくり」に邁進されました。「リフレかやの里」は、「障害のある人たちに給料と仕事を保障する」「丹後地域にA型事業所をつくりたい」「地域を元気にしたい」そんな思いで、町が指定管理を公募した際に応募しました。リフレでのレストランやホテルの仕事を通して、「きれいに掃除してるね」「まじめに仕事してるね」と直接地域の方々と接し、声をかけてもらうことで仲間も自信をもって仕事をする姿が見られ、地域の方々もリフレのお風呂やレストランがあることで、おいしいものを食べたり、温かく大きなお風呂に入ることができて嬉しい、双方が喜びあえる、そんな地域とのつながりを大事に運営されています。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大の影響は大きく、また最寄が上がっていることで、A型事業の困難さを抱えています。与謝野町自体も、方針の転換があり指定管理制度の継続がなく、2023年度以降はどうなるかが確定していないという大きな課題が出ています。藤原氏のお話を聞きした後に、農産加工所やビニールハウスでの九条ネギ栽培の様子などを見学させていただいたことで、障害のある人の当たり前に働き、暮らしていくことを保障するために、私たちの仕事、社会福祉の役割があると改めて考えさせられる時間となりました。



～シオノ鋳工株式会社～



管理職養成学校1泊研修の目玉となる、「異業種の経営者から学ぶ」講座は、(株)シオノ鋳工の塩野浩士氏です。受講生は事前にシオノ鋳工のホームページを見てからの現地入り。ホームページからもユニークな塩野社長の姿や、スタッフが企業紹介するユーチューブなど、福祉業界から見るととても斬新な会社の様子が伝わります。いざ工場見学(危ないので外から見るだけですが)、普段目にすることのない鋳物の作業工程を見て、講義会場へうつりました。会場に入る前の休憩所にも、休日取得日数や自己紹介シートなどが貼ってあったり、「このエリアの掃除は〇〇が担当しています」という看板があちらこちらに立てられていたりと、なかなか私たち福祉の職場では目にすることが少ない掲示物もたくさん見られました。塩野社長の講義では、リーマンショックで経営が行き詰ったときに「経営理念」を社員と考えたり、鋳物工場という熱い現場で体調を崩す社員が増えたことをきっかけに給食を提供するなど、社員を大事にする姿、給与のベースアップのために社員自身がプレゼンテーションをすること、仕事以外の関係づくりとして、三輪車レースに真剣に取り組まれたり、「ヒロシの部屋」と名付けられた飲み会や、釣り大会などなど、楽しそうな取り組みも盛りだくさん。塩野社長は「与謝野町を活性化させたい」という思いも強く持っておられ、何を聞いても「目から鱗」であり、斬新な発想やアイデアでありながら、参考になるお話をたくさん聞かせていただきました。福祉現場で全部は真似できないけれども、塩野社長のような「社員思いの魅力的な管理職に」私たちなりたい、そう思える講義でした。



剣に取り組まれたり、「ヒロシの部屋」と名付けられた飲み会や、釣り大会などなど、楽しそうな取り組みも盛りだくさん。塩野社長は「与謝野町を活性化させたい」という思いも強く持っておられ、何を聞いても「目から鱗」であり、斬新な発想やアイデアでありながら、参考になるお話をたくさん聞かせていただきました。福祉現場で全部は真似できないけれども、塩野社長のような「社員思いの魅力的な管理職に」私たちなりたい、そう思える講義でした。



～かや山の家～

見学を終え、大江山の「かや山の家」へ移動。すぐさま恒例のプレゼンテーションです。今回の課題は第二回の浜岡先生の「社会福祉法人のあり方」について学び、社会福祉法人の現状と課題を踏まえつつ、法人の理念に照らして、自施設の存在意義・価値を振り返り、自分の職場の運営課題を明確にし、リーダーとして運営課題の解決に向けての道筋を考えた、「組織運営について」がテーマです。今回は法人内の管理者の集まりの場を想定して、自分と同じ職位である管理的立場の人たちに向けて、3分間で語る設定です。前回よりさらに「難題」な上、初めての対面でのプレゼン！受講生の皆さんのが緊張感が伝わ



ってきましたが、3分間という限られたプレゼンの中で、堂々と自分たちの事業者や施設の課題を語っていました。プレゼンが終った受講生の方から、「山の見方の風景と色が違う」という感想もありました。初めての対面でのプレゼンを終えた受講生は一回り大きく見えた感じがします。第二講座から今まで、それぞれ真剣に悩み考え、改めて自分の課題に気づいたのではないかでしょうか。第四講義、第五講義でのプレゼンが非常に楽しみです。



～夜の部～



1日目の振り返りのグループワークと「山の家」のおいしい夕食を終えた後、各ゼミごとで対面交流。最終のゼミ発表に向けての打ち合わせは進みましたでしょうか。宿泊先も各ゼミごとに分かれて、受講生どうしの連帯がより深まり合う与謝野町での夜のひと時となりました。



2日目～やすらの里・青木理事長講義～「よさのうみ福祉会の福祉経営実践と組織運営」

研修2日目は地域共生型福祉施設「やすらの里」で行い、よさのうみ福祉会青木一博理事長の講義でした。

講義の前半は、よさのうみ福祉会の福祉経営実践についてです。民間が運営していた「リフレかやの里」が倒産した後、地域住民の施設再建の願いに応えることと、障害者の就労保障を合致させて、よさのうみ福祉会が指定管理者として2011年にリニューアルオープン。福祉会として初めての宿泊施設やレストランの経営へのチャレンジ、そこには行政の財政的なバックアップと共に、そのような施設の経営ノウハウがない福祉会を信頼して指定管理者として選定するという福祉と行政の関係性がありました。



「やすらの里」は2013年に開設された高齢・障害・保育と異業種の4法人が同一敷地内で協働して運営する地域共生型福祉施設です。その成り立ちの過程にも、街づくりと福祉の向上を一体的に考えてくれる行政のバックアップが存在していました。行政が与謝野町の24か所の公民館で地域住民と対話し、願いを吸い上げて、多面的な要求に応えてできた施設であり、「やすらの里」ができることで産業が停滞して活気がなかった町に多くの雇用が生まれました。

このように、福祉と地域・行政が連携して課題解決に向けてベクトルを一致させて地域再生を目指す与謝野町の「3者よし」の地域性という素晴らしさが報告され、青木理事長はこのような与謝野町の取り組みが国の無責任な地域共生社会の考え方や、社会福祉法人解体の動きへの対抗軸となりえることを強調しつつも、与謝野町という地域の「個別性」は確かにあるが、全国津々浦々において「地域の福祉要求と住民の願い」がない地域はない！という「普遍性」も強調されて、それぞれの地域の願いに社会福祉法人がどう応えていくのかを考える役割があると提言されました。

後半の話は組織における理念の大切さと、その理念の実現を目指す組織運営について。理念を時代が求める変化にも対応する形で発展させた「めざすもの」づくり、「めざすもの」を実現するための「ゆめビジョン」づくり、「期待する職員像」から「めざす職員像」づくりへ、利用者家族からの願いの聞き取りを丁寧に行い、他法人が作成した物真似をせず時間をかけて自分たちで独自の物を考えるプロセスを大事に具体的な形づくりを進めていくよさのうみ福祉会の組織運営づくりについて学びました。



グループワークでは、よさのうみ福祉会の社会福祉経営実践と組織運営の学びから、社会福祉法人が地域で果たす役割についての考えが深まりました。そして、それぞれの受講生が自分の地域、自分の法人と照らし合わせて考え合う機会となりました。コロナ禍で内向きになっていた視点を再度地域に広げる大切さ。困難事例を福祉力だけで解決せずに行政と一緒に考えていく必要性。実践と理念を繋いでいくマネジメントが管理職の役割だと学んだ。法人創設メンバーが少なくなって自分が何をするべきか、職員の思いを聞いていくことの大切さを学んだ。などのグループワークの内容が報告されました。

研修の総評として、全国会議理事の小早川氏より、①より具体的な言葉で！がむしゃらに！プレゼンの振り返りを実施しよう。曖昧な言葉を使わず実践の中から具体的に民主的経営を目指そう！②地域を変える運動、政治を変える運動に住民と共に参加していこう！③管理職としてもっともっと学んでいこう！と提起されました。青木理事長からは今回の学びと次回第4講座での財務についての学びを、最終課題の中長期事業計画作成へ繋げていってほしいと期待の言葉を頂き2日間の研修は終了しました。



ご多忙ななか、多岐にわたる学校運営へのご協力を賜りましたよさのうみ福祉会の青木理事長はじめ利用者、職員の皆様に、全国会議研修委員・事務局一同厚く御礼申し上げます。

